

くすのき



岡本小学校 学校だより
No.10
令和3年9月30日
『生き生き学校』



《学校教育目標》夢に向かって未来を拓く『おかもとの子』の育成

主体的に取り組む体育フェスへ

9月30日をもって、神奈川県緊急事態宣言が解除される見通しとなりました。岡本小学校でも夏休み明けから、毎朝教室に入る前の検温や授業中のソーシャルディスタンス、昼休みの廃止等、できうる限りの感染対策を実施してきました。子どもたちは窮屈な学校生活を強いられてきましたが、そんな中にあっても私たちに多くの笑顔を見せてくれています。私たち教職員にとって、子どもたちの笑顔は大きな励みです。

地域の感染状況を見ながら引き続き感染対策を継続しつつ、子どもたちにとって必要不可欠な通常の学校生活を少しずつ取り戻していこうと考えます。ご家庭での健康観察は今後も継続しますが、ご協力よろしくお願いいたします。

さて、子どもたちが楽しみにしている「体育フェスティバル」が一月後に迫りました。「体育フェスティバル」は、子どもの主体性を生かした「運動会」として、昨年度から実施しています。今年度は新たな取組として、異学年集団のなかよし班活動を生かした種目を取り入れることになりました。異学年集団活動を取り入れる目的は、子ども自らに「関わり合う喜び」を感じとらせることです。

「自分には役割がある」
「自分は他の人の役に立っている」



「人と関わることは楽しい」
「自分も大きくなったら、あんなふうになりたい」

9月21日・22日両日には、児童代表委員会が開かれました。通常は3年生以上の代表がでることになっていますが、この両日は、1・2年生の代表も初めて参加しました。体育フェスティバルのなかよし班で行う種目を決めるためです。

この代表委員会に先立ち、各クラスでは、「なかよし班種目には何がふさわしいか」について話し合いが行われました。なかよし班種目を選ぶ視点は、①1～6年生が協力できる種目か ②作戦

を立てたり練習したりできる種目か という2点です。「玉入れ」「大玉転がし」「つなひき」の3種目について、①②の視点から話し合いが行われました。



○いろんな学年と協力できる
△練習のつなをどうする？



○大きいから協力できそう
△ペースが合わせられるか心配



○作戦を立てやすい
△交流が少なく、一人でやっている感じがする

各学級から、それぞれの種目のメリット・デメリットが数多く出されました。各学級の代表者は、

それらの意見をもって代表委員会に参加しました。代表委員会では、なかよし班種目としてよりふさわしいのはどの種目か、課題となっている部分をどのように改善していけばよいかについて話し合われました。多くの子どもたちが積極的に意見を伝え合い、最終的に決定したのは「つなひき」です。

先生がやると決めた「つなひき」ではなく、全校の子どもたちが話し合いで決めた「つなひき」であることに、大きな価値があります。リーダー的な役割を演じるのも、決して一部の子どもだけではありません。自分たちで決めたからこそ、これからの練習や作戦決めにも、一人ひとりの子どもたちがそれぞれの役割をもち、主体的に取り組むことができることでしょう。お世話される側からお世話する側へという役割の推移が、ゆっくりと長期にわたって継続することも、異学年集団活動に期待している部分です。

目標をもって主体的に取り組む「体育フェスティバル」に一步一步近づいていきます。



地域の学び～5年生総合的な学習の時間～

9月28日(火)の3～4校時、地域にお住いの石川 栄さんをお招きし、5年生が地域の農業についての学びを深めました。

石川さんは長年のご自身の経験をもとに、「農業人口が減っているのはなぜですか?」「米作りにかかる費用はどれくらい?」などの子どもたちの質問に、丁寧に応えてくださいました。「昔、岡小の周りは田んぼだらけだったのですよ」という話にも驚きました。教科書では学ぶことのできないリアルな話を聞くことができ、南足柄市への思いがさらに深まった子どもたちです。



★今後の給食の提供について★

夏休み明けの一週間の休業の影響により、当初予定されていた給食の回数が減っております。そこで、今後、給食回数の回復措置をいたします。

つきましては、学期末や学期始め、学年末を中心に給食を提供する予定です。詳細につきましては月の行事予定をご確認ください。

環境整備ありがとうございました!

9月19日(日)、岡本小学校区青少年健全育成会の方々が、グラウンドの除草作業をしてくださいました。夏の長雨の影響で、刈っても刈っても伸びてくる雑草とイタチごっこを繰り返していましたが、おかげさまでグラウンドがとてきれいになりました。

地域の方々が、子どもたちの学習環境を整えてくださっておりますことに、心から感謝です。



わたしのひとりごと

1歳半になるお孫ちゃんは、毎日同じライオンの洋服を着ています。

「ばあば、見て! ○○ちゃんとおんなじ」
ばあばに会うたびに、いつも張り切って教えてくれます。
母親に聞くと、

「保育園の大好きなお友達がよく来てくれる服だから、最近はその着ない。洗い替えはあるけれど、とっかえひっかえそれしか着なくて困っちゃう」と…。

そういえば、保育園に通いだしてから、いろんな言葉(何を言ってるかは不明)をいっぱいしゃべるようになりました。初めのうちこそ大泣きしていましたが、今では保育園が大好きです。まだ2歳にもならない赤ちゃんなのに、集団生活の力はとても大きいと感じます。子どもはこうして、親から少しずつ離れ、社会性を身につけていくのだなと思います。ばあばになって、遅ればせながら気づいたことです。

子どもは、他の子どもと一緒に遊ぶことを通して、「人と関わることって楽しいな」と感じ、そこから「人との関わり」が始まります。「人と関わりたい」と思う気持ち(「社会性の基礎」)は、自らの体験によってのみ獲得されるのだそうです。

コロナ禍により教育の世界は目まぐるしく変わっています。タブレットはその代表格。タブレットの普及によって、その子の力に合ったドリルなどを提供することが可能になりました。また、タブレットのアンケート機能などを使って瞬時に結果の集計が可能になったり、自分の考えをいろいろツールを使って表現できたりすることで、協働的な学びの場も広がりました。

しかし、アサガオの種を落とさないように一生けん命にしている1年生や、代表委員会で優しく下学年のお世話をしている6年生の姿を見るにつけ、子どもたちの目の輝きが違うことに気づかされます。小学校には、やはりリアルな「人との関わり」「ものとの関わり」が必要だと思えます。

コロナによって、子どもたちが貴重な学びの場や目の輝きを失わないように…改めて自分の心に言い聞かせました。